

第16回

全日本カッター競技大会

日 時 昭和47年5月21日(日) 09:00~16:00
(雨天決行)

場 所 神奈川県横須賀市馬堀沖

主 催 全日本カッター連盟

当番校 防衛大学校

後 援 日本放送協会

横須賀市教育委員会

デイリースポーツ新聞社

主催会議 1400

1. 運営部長 あいさつ 学生部長 清水一佐
2. 大会委員長付 あいさつ 校友会委員長 (校友会) 平野孝生
3. 競技大会実施要領の説明 本印企画係 佐藤三佐

審判 各大学より1名

会場付近地図

陸上施設拡大図

雨天の場合の雨具会式 選手休憩所で行う

通信計画

レース予備ホームに2本掲載

安全について → 文会について

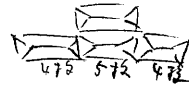
天気及び気温状況

開会式

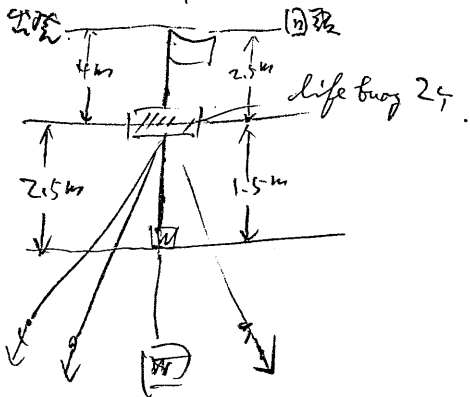
選手入場

閉会式

入場は行わない



4. 審判調整事項の説明 (海印協2) 山下2字海保



5. 競技組合せ 2-入及び使用艇の抽せん 本印企画係

神戸市要環 (おとりかじ)

開会式 正服

閉会式 競技の服装 or 正服

第 1 6 回 全日本カッター競技大会

主 催 全日本カッター連盟

当 番 校 防 衛 大 学 校

後 援 日 本 放 送 協 会

横 須 賀 市 教 育 委 員 会

デイリースポーツ新聞社

(順不同)

日 時 昭和47年5月21日(日曜日)

午前9時から午後4時まで

(雨天決行)

会 場 神奈川県横須賀市

馬堀沖



第16回 全日本カッター

競技大会を迎えて

防衛大学校長 猪 木 正 道

新緑薫る5月、全国の海洋にゆかりのある各大学の参加を得て、第16回全日本カッター競技大会を開催するにいたりましたことは誠に慶賀に堪えません。

わが国は四面海に囲まれた海国であり、わが国の歴史・伝統は海と共に築かれ、培われてまいりました。

本日、全日本カッター連盟加入校の学生諸君が、精一杯の心技を競うカッター撓漕の競技会もこの伝統の中に生きているものであります。カッターは、その漕手の一糸乱れぬ均勢のとれた一致団結があって初めて本来の艇速を得ます。カッター競技はもともと伝統的な、かつ、すぐれた男性的な競技であります。

競技会である以上、全力をつくして勝敗を争っていただきたいことはもちろんであります。それにもまして、本大会が将来海洋に生きるという共通の場を持つ学生諸君の友情を高め合い、日本の海技発展に力を合わせていく何らかのきっかけになれば、当番校としての喜びこれに過ぎるものではありません。

選手諸君の御健闘を心から祈念いたします。

最後に本大会を開催するにあたり、種々御援助、御配慮を賜りました各位に対して深甚の謝意を表するものであります。

昭和47年5月

大 会 役 員

会 長	防衛大学校	学校長	猪 木 正 道
副 会 長	防衛大学校	幹 事	中 山 平八郎
	海 技 大 学 校		福 地 章
	海上保安大学校		伊 藤 実
	鹿 児 島 大 学		肥 後 伸 夫
	神 戸 商 船 大 学		原 潔
	神奈川歯科大学		佐 藤 金 治
	水 産 大 学 校		橋 本 市 雄
	電 気 通 信 大 学		松 岡 籙 之
	東 京 商 船 大 学		中 島 保 司
	東 京 水 産 大 学		宮 崎 芳 夫
	長 崎 大 学		柴 田 恵 司
	日 本 大 学		添 田 秀 男
	三 重 県 立 大 学		細 川 鉄 雄
	防 衛 大 学 校		橋 本 孔 成

大 会 委 員

大会委員長	委員付
訓練部長 小笠英敏	校友会委員長 平野 徹
運 営 部 長	同 上
学生課長 清水正己	運動部専任委員 越野修三
審 判 長	同 上
海上防衛学助教授 山下 博	短艇委員会主将 高橋英雄

過 去 の 成 績

回	年月日	場 所	参加校 チーム	優 勝	2 位	3 位
東航	1	32.6.23	東 京	8 東京水産大学	東京商船大学	神戸商船大学
○	2	33.5.25	神 戸	10 東京水産大学	水産大学校	東京商船大学
海保	3	34.6.7	呉	11 水産大学校	海上保安大学校	東京水産大学
防大	4	35.6.15	横須賀	10 神戸商船大学	水産大学校	海上保安大学校
○	5	36.5.28	神 戸	11 東京水産大学	水産大学校	三重県立大学
東航	6	37.5.27	館 山	10 東京商船大学	防衛大学校	水産大学校
海保	7	38.5.19	呉	11 東京水産大学	海上保安大学校	神戸商船大学
東航	8	39.5.10	館 山	11 神戸商船大学	海上保安大学校	東京商船大学
○	9	40.5.16	神 戸	11 神戸商船大学	防衛大学校	水産大学校
防大	10	41.5.15	横須賀	11 海上保安大学校	防衛大学校	三重県立大学
海保	11	42.5.14	呉	11 防衛大学校	海上保安大学校	三重県立大学
東航	12	43.5.19	館 山	11 防衛大学校	神戸商船大学	海上保安大学校
海保	13	44.5.23	呉	9 防衛大学校	東京商船大学	海上保安大学校
東航	14	45.5.17	館 山	12 防衛大学校	長崎大学	海上保安大学校
防大	15	46.5.16	神 戸	12 防衛大学校	神戸商船大学	鹿児島大学
	16	47.5.21	横須賀	13		

神戸 4 海保. 4

防大 3

東航 1 5
東航

行 事 日 程

1. 主将会議

- (1) 日 時 昭和47年 5 月20日 (土) 14:00～16:00
- (2) 場 所 防衛大学校 本館会議室
- (3) 参加者 参加校 主将及びマネージャー
大会委員
- (4) 議 題 競技大会実施要領の事前説明
組合せ、コース及び使用艇の抽選
その他 調整事項

2. 競技大会

- (1) 日 時 昭和47年 5 月21日 (日) 09:00～16:00
- (2) 場 所 横須賀市馬堀沖

3. 連盟会議

- (1) 日 時 昭和47年 5 月21日 (日) 17:00～18:00
- (2) 場 所 防衛大学校 走水海上訓練場 会議室
- (3) 参集者 加盟校 顧問、主将及びマネージャー
大会委員
- (4) 議 題 次期当番校の決定
本大会の反省
その他 懸案事項

クルー名簿

海技大学校

(注) ◎印 主将 ○印 マネージャー

顧問 福地 章 (講師)

	氏名	科・学年	身長	体重	出身校	出身県
艇指揮	◎藤 田 勲	本 N 2	169	68	児島	岡山
艇長	○河 合 昭	本 E 2	169	67	弓削商船	香川
1	秋 山 錠次	本 E 2	175	70	鳥羽商船	三重
2	後 藤 利夫	本 E 2	165	65	広島商船	広島
3	宮 下 武	甲 E 2	166	68	芦屋	兵庫
4	日 浜 和則	甲 E 2	168	68	唐津	佐賀
5	石 井 康隆	甲 E 2	166	59	門司	福岡
6	阿 部 登寿男	甲 E 2	170	64	宮城水産	福岡
7	松 井 文孝	甲 N 2	168	62	唐津	佐賀
8	高 野 哲夫	甲 E 2	167	69	八戸	青森
9	石 川 慎弋	本 N 2	169	68	山口水産	山口
10	中 山 康	本 N 2	168	60	大島商船	山口
11	長谷部 惇一	本 N 2	166	65	弓削商船	香川
12	小 池 勤	本 N 2	162	62	山口水産	山口
補	藤 本 幸男	本 N 2	168	60	広島商船	広島

海上保安大学校

(注) ◎印 主将 ○印 マネージャー

顧問 伊藤 実 (訓練係長)

	氏名	科・学年	身長	体重	出身校	出身県
艇指揮	江 尻 信久	N 3	161	59	長崎	長崎
艇長	東 原 健	N 2	168	61	八尾	大阪
1	石 間 聡孝	N 2	168	61	藤枝	静岡
2	八 木 康夫	W 3	165	64	立川	東京
3	河 合 弘	N 1	164	63	浜松	静岡
4	佐 瀬 和行	N 3	171	64	下関	山口
5	相 馬 英世	N 3	165	65	青森	青森
6	倉 重 吉範	N 1	173	64	高千穂	山梨
7	一 藁 勝	N 1	176	80	葉工業	千葉
8	西 口 政文	N 3	173	72	龍野	兵庫
9	◎白 田 重雄	E 3	175	72	向陽	愛知
10	黒 沢 正三郎	E 1	170	68	緑岡	茨城
11	比 良 和年	E 3	164	60	四日市	大分
12	倉 田 勝行	W 2	164	55	新潟	新潟
補	浦 辺 和男	E 2	171	63	明石	兵庫
補	平 家 隆雄	E 3	171	69	松山	愛媛
補	○渡 辺 敏明	E 3	164	60	花巻	岩手

ク ル ー 名 簿

鹿 児 島 大 学

(注) ◎印 主将 ○印 マネージャー

顧問 肥 後 伸 夫 (教授)

	氏 名	科・学年	身 長	体 重	出 身 校	出身県
艇指揮	尾 上 由	漁業 3	1 6 1	5 4	大 口	鹿児島
艇 長	松 浦 静 則	漁業 3	1 6 2	5 6	五 竜	鹿児島
1	鶴 野 孝 徳	漁業 3	1 7 2	6 5	水 俣	熊本
2	奈 須 昭 一	増殖 3	1 7 2	6 2	宮 崎	宮 崎
3	◎坂 井 一 郎	製造 3	1 6 1	5 9	小 倉	福岡
4	鶴 木 明 伸	漁業 3	1 7 3	6 5	大 宮	宮 崎
5	沢 津 川 隆	漁業 3	1 6 9	6 1	川 内	鹿児島
6	北 沢 弘	漁業 3	1 6 9	5 8	上 田	長野
7	◎毛 利 公 朗	漁業 3	1 7 8	6 8	児 島	岡山
8	木 村 春 樹	漁業 3	1 7 4	6 5		北海道
9	稲 葉 誠	漁業 3	1 7 5	7 0	五 竜	鹿児島
10	太 田 進	製造 3	1 7 0	6 2	大 濠	福岡
11	堀 春 隆	漁業 3	1 6 4	6 0	五 竜	鹿児島
12	山 下 清 志	漁業 3	1 6 4	5 8	五 竜	鹿児島
補	古 金 啓	漁業 2	1 7 1	6 5	済 々	熊本
補	寺 岡 幸 雄	漁業 2	1 6 9	5 9	藤 枝 東	静 岡

神 戸 商 船 大 学

(注) ◎印 主将 ○印 マネージャー

顧問 原 潔 (助教授)

	氏 名	科・学年	身 長	体 重	出 身 校	出身県
艇指揮	吉 原 善一郎	E 4	1 6 9	6 4	市 岡	大阪
艇 長	高 田 芳 樹	E 4	1 7 0	6 0	済 々	大 熊 本
1	浜 本 宏	E 2	1 7 4	6 9	御 影	兵庫
2	淡 野 仁	E 3	1 6 5	6 4	生 野	大阪
3	佐々木 真 己	N 3	1 7 0	6 4	岡 崎	愛知
4	平 井 透	E 3	1 6 5	6 5	基 町	広島
5	◎小 鹿 邦 博	N 4	1 7 3	7 0	加 納	岐阜
6	吉 井 寛	E 4	1 8 0	7 0	高 田	新潟
7	金 田 龍 二	N 3	1 8 0	7 4	茨 木	大阪
8	鶴 谷 雄 一	N 3	1 7 3	6 6	市 岡	大阪
9	西 岡 進	E 3	1 7 0	6 4	姫 路	大阪
10	山 下 滋 生	N 3	1 7 9	6 8	高 規	大阪
11	竹 中 勝 治	N 3	1 6 1	6 0	佐 伯 鶴 城	大 分
12	上 田 哲 也	E 3	1 7 1	6 5	萩 々	山口
補	伊 藤 進	E 2	1 7 3	7 0	済 富	熊 本
補	黒 木 伸 一	N 2	1 7 4	6 7	富 島	宮 崎
補	山 田 弥 夫	E 2	1 7 1	6 5	諫 早	長 崎
補	○竹 中 正	E 4	1 7 3	6 3	高 志	福 井

ク ル ー 名 簿

神 奈 川 歯 科 大 学

(注) ◎印 主将 ○印 マネージャー

顧問	佐藤金治 (生物学教授)	氏名	科・学年	身長	体重	出身校	出身県
艇指揮	◎相浦州吉	齒 5	178	66	西南学院	福岡	
艇長	藤波好文	齒 5	155	55	済々黌	熊本	
1	谷口二郎	齒 4	173	66	砂川北	北海道	
2	中原純一	齒 3	169	66	小倉	福岡	
3	坂本彰宏	齒 4	175	65	熊本第2	熊本	
4	野尻正博	齒 3	170	58	札幌東	北海道	
5	佐々木世児	齒 4	173	65	五所川原	青森	
6	大沢誠	齒 3	167	68	福岡	福岡	
7	北風裕一	齒 4	165	60	砂川北	北海道	
8	平田賢次	齒 4	165	60	宗像	福岡	
9	小野孝明	齒 3	172	63	別府鶴見ヶ丘	大分	
10	幸治悟	齒 4	165	63	長舞鶴	千葉	
11	武生仁道	齒 3	174	64	大分舞鶴	大分	
12	植村貞道	齒 3	166	60	九段	千葉	
補	衣川修成	齒 3	160	53	清風南海	大阪	
補	高屋俊成	齒 3	155	52	日大桜ヶ丘	青森	
補	牧正仁行	齒 3	170	53	熊本商大付属	熊本	
補	湯山徳行	齒 2	172	67	杉並	東京	

水 産 大 学 校

(注) ◎印 主将 ○印 マネージャー

顧問	橋本市雄	氏名	科・学年	身長	体重	出身校	出身県
艇指揮	前田修三	G 3	160	56	小野田	山口	
艇長	○大竹宗行	K 3	170	59	向陽	山梨	
1	池田明	K 3	165	62	芝浦工大付	愛知	
2	小山伸	K 2	172	65	春日丘	大阪	
3	前田宏高	G 3	168	66	玉名	熊本	
4	鈴木泰夫	G 2	175	66	緑ヶ丘市	神奈川	
5	渡辺栄登	S 2	173	72	四日市	大分	
6	藤本敏夫	G 3	168	60	萩	山口	
7	◎田中洋一	Z 3	171	67	芦屋	兵庫	
8	原岡勉	K 3	172	65	北野北井	東京	
9	森岡誠二	K 3	170	59	佐世保	長崎	
10	藤麻博	K 3	173	67	柳賀	山形	
11	岡光弘	G 3	170	63	賀茂館	広島	
12	高橋雅樹	Z 2	172	58	興讓	山形	
補	久保山茂	G 2	173	65	小倉	福岡	
補	松原宏	S 2	167	68	大牟田	福岡	
補	喜多村美典	G 2	162	58	追手前	高知	

ク ル ー 名 簿

電 気 通 信 大 学

(注) ◎印 主将 ○印 マネージャー

顧問 松岡 頼之 (講師)

	氏 名	科・学年	身 長	体 重	出 身 校	出身県
艇指揮	道上 幸司	R 3	165	56	三原	兵庫
艇長	○三橋 行夫	R 3	175	65	平塚 工業	神奈川
1	久野 英明	T 2	168	57	葛西 工業	東京
2	青木 順生	R 2	165	61	寒河 工業	山形
3	根笹 光栄	R 2	171	66	勝沼 工業	千葉
4	三浦 康人	R 2	170	62	佐相 田	宮城
5	小西 秀良	T 2	162	59	香秋 霞	福岡
6	石山 寿昭	E 2	165	53	朝福 岡	秋田
7	石郷 明良	R 2	175	62	福岡 工業	埼玉
8	拌渡 譲夫	T 2	160	52	福卷 工業	福岡
9	井上 光夫	R 2	165	60	荻山 北	新潟
10	井上 光夫	R 2	164	53	山北	神奈川
11	◎松尾 達郎	R 3	162	57	荻山	山口
12	佐藤 博理	R 3	169	63	芦台 別	北海道
補	花川 理博	R 4	170	60	仙台 電波	宮城
補	今川 博	R 4	175	63	仙台 電波	宮城

東 京 商 船 大 学

(注) ◎印 主将 ○印 マネージャー

顧問 中島 保司 (航海科教授)

	氏 名	科・学年	身 長	体 重	出 身 校	出身県
艇指揮	室崎 康志	E 4	170	65	長崎	長崎
艇長	清水 正男	N 4	165	64	桐朋	東京
1	金子 史郎	N 3	167	62	荻山	山口
2	佐藤 実	N 3	173	70	富山	富山
3	遠藤 真	N 2	171	65	静岡 岡	静岡
4	見崎 久資	N 3	178	68	焼津 中	静岡
5	正林 健次	N 4	167	65	若松 央	福岡
6	奥野 隆吉	N 3	166	67	杵築 松	大分
7	高野 健吉	E 3	173	73	米沢 興	山形
8	古屋 隆行	N 2	176	75	墨田 讓	東京
9	浜口 俊明	N 3	170	70	豊川 浦	山口
10	井地 秀一郎	N 2	165	70	戸畑	福岡
11	◎青木 久幸	N 4	168	63	浜西 松	静岡
12	光延 秀夫	E 3	167	64	戸畑	福岡
補	中山 正文	N 3	168	67	千日 葉	千葉
補	中野 雅司	N 2	172	62	日野	東京
補	○木下 彰二	E 3	170	63	湘南	神奈川

ク ル ー 名 簿

東京水産大学

(注) ◎印 主将 ○印 マネージャー

顧問 宮崎芳夫 (講師)

	氏 名	科・学年	身長	体重	出身校	出身県
艇指揮	壺井敏郎	漁業 2	170	70	桃山学院	大阪
艇長	中島輝彦	製造 3	165	57	若狭	福井
1	小坂泰信	漁業 2	178	67	郡山	奈良
2	鮎川通孝	食品 2	166	63	猶興館	長崎
3	辻敏生	漁業 3	164	60	鎌倉	神奈川
4	坂本隆	食品 2	175	66	磐城	福島
5	小金沢重充	漁業 2	166	68	野沢	長野
6	関康夫	漁業 2	174	69	下関	山口
7	田村公平	漁業 3	179	78	西脇	兵庫
8	加納信一郎	製造 3	175	74	佐世保	長崎
9	○藤沢辰夫	漁業 3	175	70	大分鶴	大分
10	益原寛文	漁業 3	175	72	修道	大島
11	◎柿原利治	漁業 3	167	65	熊本	熊本
12	田中深貴男	増殖 3	164	63	下関	山口
補	溝上龍太	漁業 2	170	63	佐世保	長崎

長崎大学

(注) ◎印 主将 ○印 マネージャー

顧問 柴田恵司

	氏 名	科・学年	身長	体重	出身校	出身県
艇指揮	武藤優	漁 3	171	65	門司	福岡
艇長	平井隆	漁 3	166	59	棒原	福岡
1	倉吉力	漁 2	171	68	山門	福岡
2	馬場徳寿	漁 2	169	60	山門	福岡
3	○松本芳夫	漁 3	167	57	松山	愛媛
4	田中秀節	漁 3	168	59	佐世保	長崎
5	原秀敏	漁 3	167	68	豊浦	山口
6	中山博道	漁 3	168	58	四日市	三重
7	田村英也	漁 3	177	71	明日石	兵庫
8	◎木下剛	漁 3	173	63	日本田	大分
9	高山久明	漁 2	173	68	松本深	長野
10	加治薰	漁 3	176	65	田川	福岡
11	菅純教	製 3	170	65	松山	愛媛
12	成松清秀	漁 3	169	58	津久見	大分
補	下野不二雄	漁 2	165	56	宮之	鹿児島
補	向井康之	漁 2	168	62	清風	和歌山
補	川上松雪	漁 2	170	58	諫早	長崎

ク ル ー 名 簿

日 本 大 学

(注) ◎印 主将 ○印 マネージャー

顧問 添田 秀男 (助教授)

	氏 名	科・学年	身 長	体 重	出 身 校	出身県
艇指揮	○山 田 文 吉	増 殖 4	1 7 1	7 3	加 茂	新 潟
艇 長	大 杉 悦 郎	遠 洋 漁 3	1 6 8	6 4	林 野	岡 山
1	土 田 哲 夫	増 殖 3	1 7 4	6 8	柏 崎 工 業	新 潟
2	庄 子 勇	漁 船 機 3	1 7 6	6 6	桜 町	東 京
3	草 山 成 美	遠 洋 漁 2	1 7 1	6 2	奏 野	神 奈 川
4	蓮 実 敏 雄	漁 業 3	1 7 4	6 5	日 大 鶴 ヶ 丘	東 京
5	二 宮 章 三	増 殖 2	1 7 1	6 7	光	山 口
6	小 田 柿 英 男	増 殖 3	1 8 0	7 0	米 原	滋 賀
7	平 栗 洋 一	漁 船 機 3	1 7 5	6 0	江 戸 川	東 京
8	竹 中 敏 昭	遠 洋 漁 3	1 7 5	6 7	厚 岸 潮 見	北 海 道
9	北 村 時 人	漁 船 機 2	1 6 7	6 6	三 重 高 田	三 重
10	寺 西 準 治	漁 船 機 2	1 6 8	6 2	神 戸 葺 合	兵 庫
11	大 滝 和 夫	遠 洋 漁 3	1 6 4	5 6	逗 子	神 奈 川
12	野 村 雄 行	遠 洋 漁 4	1 6 8	5 3	二 松 学 舎	東 京
補	中 山 隆 夫	遠 洋 漁 2	1 7 6	6 5	三 国	福 井
補	茂 木 治 男	遠 洋 漁 2	1 7 0	7 0	本 庄	埼 玉
補	平 田 正 俊	遠 洋 漁 2	1 7 0	5 6	明 治 学 院 東 村 山	東 京
補	橋 本 実	増 殖 2	1 6 9	6 0	一 条	奈 良

三 重 県 立 大 学

(注) ◎印 主将 ○印 マネージャー

顧問 細川 鉄雄 (漁業科教官)

	氏 名	科・学年	身 長	体 重	出 身 校	出身県
艇指揮	神 田 猛	増 殖 3	1 6 5	5 3	津	三 重
艇 長	八 塚 道 矢	漁 業 2	1 6 8	5 5	宇 治 山 田	三 重
1	沼 茂	漁 業 3	1 6 7	6 0	津	三 重
2	米 田 恵 信	漁 業 2	1 6 5	6 6	名 張 西	三 重
3	藤 田 努	漁 業 3	1 7 0	6 2	名 古 屋 西	愛 知
4	松 本 茂 樹	漁 業 2	1 7 3	6 3	高 松 南	香 川
5	松 岡 純	増 殖 2	1 7 2	6 5	大 津 市	山 口
6	伊 藤 武 則	増 殖 2	1 6 8	6 1	四 日 津	三 重
7	大 富 喜 久 雄	製 造 2	1 6 4	6 3	津	三 重
8	◎大 路 正 人	漁 業 3	1 6 9	6 8	池 田	大 阪
9	中 村 勝	漁 業 2	1 7 5	6 8	鳥 羽	三 重
10	○中 西 豊 彦	製 造 3	1 7 8	6 8	七 尾	石 川
11	佐 藤 孝 介	増 殖 2	1 6 8	5 9	県 立 兵 庫	兵 庫
12	雲 井 章 之	漁 業 2	1 7 0	6 7	津 館	三 重
補	竹 田 力	漁 業 4	1 7 2	6 5	伝 習 館	福 岡
補	橋 本 博 幸	増 殖 4	1 7 0	5 3	長 崎 南	長 崎
補	長 谷 川 修 平	増 殖 4	1 6 3	5 5	名 古 屋 西	愛 知

ク ル ー 名 簿

防 衛 大 学 校

(注) ◎印 主将 ○印 マネージャー

顧 問 橋 本 孔 成 (指導教官兼訓練教官)

	氏 名	科・学年	身 長	体 重	出 身 校	出身県
艇指揮	◎高 橋 英 雄	海 基Ⅰ 4	1 7 0	6 7	八 代	熊 本
艇 長	宮 本 積	陸 機 械 4	1 6 5	6 2	人 吉	熊 本
1	加 藤 保	海 基Ⅰ 4	1 6 0	5 5	福 岡	福 岡
2	児 玉 慎 二	陸 機 械 4	1 6 5	6 2	都 城 泉ヶ丘	宮 崎
3	西 原 篤	海 基Ⅱ 3	1 7 1	5 8	小 松	愛 媛
4	森 本 春 男	海 基Ⅱ 4	1 6 5	6 4	富 岡	西 徳 島
5	柴 田 秋 穂	1	1 7 6	7 0	上 五 島	長 崎
6	山 口 日出雄	空 航工 3	1 7 4	6 8	野 沢	北 野
7	米 田 直 人	海 応物 3	1 7 2	7 5	苫 小 牧	北 海 道
8	外 山 帥 生	海 応化 4	1 7 4	7 0	熊 本	埼 玉
9	泉 幸 夫	陸 2	1 7 2	6 3	熊 本 工 業	熊 本
10	三 次 悟	陸 2	1 7 5	6 7	緑 岡	茨 城
11	矢 野 光 政	海 基Ⅱ 4	1 7 0	6 6	横 須 賀	神 奈 川
12	出 来 逸 雄	海 基Ⅱ 4	1 7 2	6 8	加 世 田	鹿 児 島
補	樋 口 徹	陸 応化 3	1 6 8	7 0	旭 川	北 海 道
補	武 田 寿 一	陸 2	1 7 3	6 3	秋 田	秋 田
補	菊 地 英 夫	海 2	1 6 7	6 7	宇 都 宮	栃 木

MEMO

その日 集合が早く、たまたま強さを上げ

(1) 出発用と言った、艇長は春男艇に白旗を上げ

(2) 予選(赤旗)、号砲、トランシーバーも出発の合図
(2-イ、7)

(3) スタート、艇着一条、出発合図艇着行方、

(4) 艇着を一条に並べる方法
最初1は両サイド、コースから捕ま、中間艇が1つ、

2月画→8月画→2月画
10月画 10月画 10月画
90°を190°、半時計回り、スタートの前後、登切で保護。

(5) ぶーいライン→Y旗の見直し線、

(6) ②頭旗及び②頭旗に技能は失格

(7) レースの異議はトランシーバーより審判長に申出る、

(8) 7ライン、チームの如くは5オ"2(10月)に付た4-G"1
失格

レースの手引

本大会に使用される艇は長さ9m12人漕ぎのカッターである。救命艇として使用されるものであるが一般のそれは艀艇同型であるのに対し、艇を切落して外観は普通の舟艇と変わらない。外板鍍張りの木製で、オール12本（各々長さ約4.3m、握りの直径76cm、重さ10乃至15kgである）マスト、セール等の艀装品を備え帆走も可能である。漕手はCrew と呼ばれ、艇尾より艇首に向って艀右側の者が1番、同じく左側の者が2番、以下交互に3・4～11・12番と続き、1、2番をBow men、11、12番をStrokemen と称している。Strokemenは撓漕のピッチを加減する任務を持つ。艇尾で舵を握るのが艇長で指揮号令をかけ指揮するのが艇指揮である。艇指揮は艇のすべての指揮を行い船長に相当する。

レース距離は折返し2000mの直線コースで行なう。各艇の艇首が一直線に並んだ時、号砲の信号によってスタートし、スタートラインより1000mの所に設置された各コース毎の回頭旗を、艇をこれに接触させずに左回り（反時計回り）に回頭して帰ってくる。即ちスタートラインがそのままゴールラインでゴールは艇首がゴールラインに達した時とする。予選は各グループ4又は5チームで実施する。

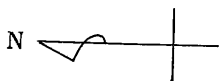
各グループの優勝チーム及び敗者復活戦で1位及び2位となった計5チームによって最後に優勝戦が行なわれる。レースはいづれも時間的ずれによる海況の変化等の影響のためにタイムレースでなく着順位である。ピッチ（1分間に漕ぐ回数）は大体30前後であるが各チームとも漕法の研究を重ねているので必ずしも一定ではなくそれぞれ特色のある漕法によるピッチを持っている。レース所要時間は10分余であるが、しかし救命艇という性質上、いかなる荒海でもレースは行なわれ、そのような場合には30分にも及ぶことがある。カッターレースは10分余の間、一瞬といえども息を抜くことを許されず、しかもクルー全員の呼吸が完全に一致しなければならない。レースの見所は、ピッチをいくらに定めるか、スタートダッシュ、回頭、ラストスパートの巧拙、風浪、海潮流の対策、利用の巧拙等たゆまぬ練習、シーマンシップを完全に身につけた者が初めて克服できる実技を兼ねた、最も豪快な海のスポーツである。

審判規則

- 1 使用艇、オール及びコースはレースの都度抽選により決定する。
- 2 スタート
 - (1) 各艇は指定の時刻、コース順に従い、スタートラインに整列する。
 - (2) 5分前をマイクにより通達スタートブイにつく。ブイにつき用意が完了したら艇長は陸上の審判員に手を挙げて合図する。
 - (3) スタート用意：号笛短声連続、手旗2原画、号笛長一声手旗頭上より一回転する。
 - (4) スタート：頭上の手旗を垂直に振下すと同時に号砲を打つ。
- 3 審判長、審判員がスタートを不完全と認めたときは直ちにレースを中止せしめ、スタートラインに呼び返す。
諸信号、審判艇コース横断。
- 4 スタートにおける号令前の飛び出し及び艇の事故によるスタートの遅速等は2回で失格である。
- 5 回頭は左回頭とする。回頭は指定の回頭旗を回頭するものとし、他の回頭旗を回頭した場合及び回頭旗に艇またはオールの一部でも接触した場合は失格である。
- 6 ゴール：艇首が規定のゴールラインに入った順序をもって順位とし順序は審判員が判定する。
- 7 同着の場合は追込艇の勝とする。
- 8 ゴールイン時のスタートブイタッチは失格としない。
- 9 各艇は自己のコースを航行しもしこれを誤って他の艇に接触その他不正行為があったと審判員の認めたときには失格とする。
- 10 レース中のコースにおける障害、自艇の故障等是他艇の不正な接触を除く他各艇自らこれを忍ぶべきものとする。しかし審判長の判断によりこの限りでないときもある。
- 11 レースに関する異議申立等はすみやかに艇指揮がこれを行い、審判長が裁決する。
- 12 オールは予備2本を積み自由に使用してよい。
- 13 補欠は2名以内自由に交替できる。
- 14 オールは流したままゴールインしてよい。

会場付近略図

カナマル瀬
黒部
イガイ根



至観音崎

走水小前
破堤

走水荘

(防大走水海上
訓練場まで約500m)

会場への交通便

1. 京浜急行 大津駅下車
2. 横須賀線 横須賀駅から
観音崎行又は防衛大学行バス
大津下車

至防大正門

松崎

日大実習場

至浦賀

回頭点

競技海面

埋立地

至浦賀

京浜急行

国道16号線

大会本部

陸上審判

大津

至品川

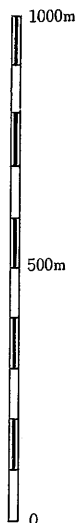
大津駅

カッター乗艇場所
大津漁港

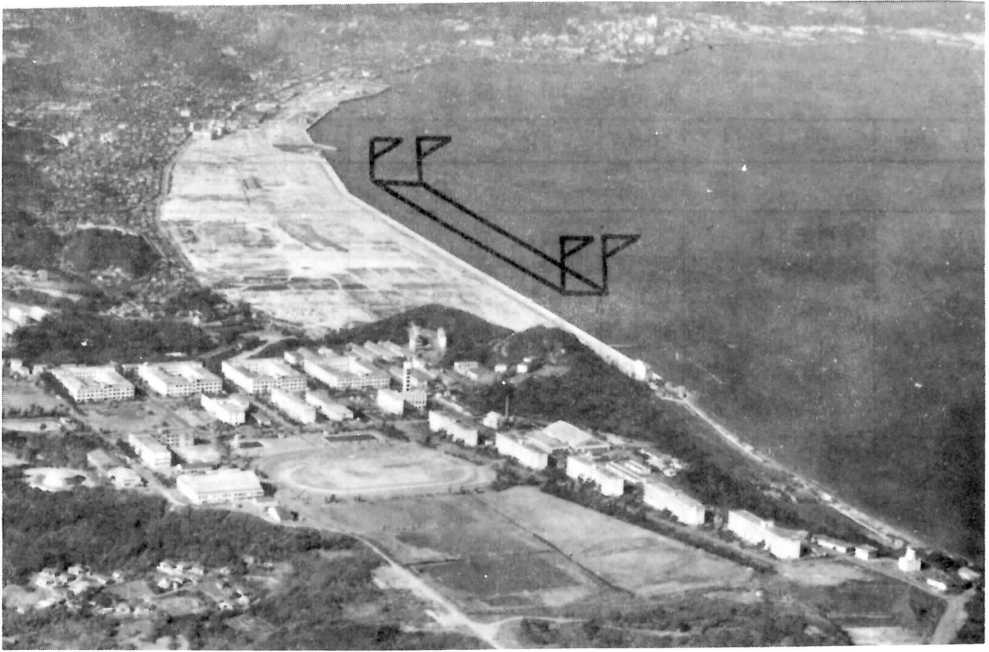
海上審判

出発・決勝線

5 4 3 2 1



1
13,000



防衛大学校から競技海面をのぞむ

防衛大学校は、陸・海・空 各自衛隊の幹部自衛官となるべき者を教育訓練する学校で、防衛庁の附属機関として昭和27年8月に設置され、昭和28年4月から学生を一般から採用しています。

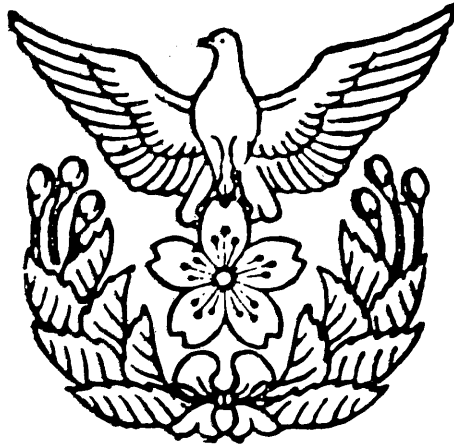
なお、昭和37年4月には理工学研究科（一般大学の大学院修士課程相当）が設置され、学生は防衛庁の職員から選抜により入校させています。



防衛大学校走水海上訓練場

選手集 0845
南会式 0855

天候	風向	風速	波浪			
時刻	種目	コース	校名	艇	着順	タイム
09 00	開	会			式	
10 00	予選第1レース	1	神 船 大	43	2	11-07.3
		2	三 重 大	23	3	11-26.9
		3	防 大	53	1	10-57.9
		4	日 大	13	5	11-51.4
		5	東 船 大	32	4	11-29.7
10 40 1085	予選第2レース 11-48.3 広島高専 ホーク参加 52-2, 32カロー	1	神 歯 大	53	4	14-22.3
		2	海 技 大	43	3	12-05.0
		3	東 水 大	13	2	11-39.6
		4	海 保 大	23	1	11-09.9
11 30	予選第3レース	1	長 大	32	3	11-39.8
		2	水 大	23	2	11-34.4
		3	鹿 大	53	1	11-22.0
		4	雷 通 大	13	4	13-42.2
昼 食 ・ 休 憩						
13 30	敗者復活レース (兼順位決定レース)	1	神 船 大	32	1	11-18.4
		2	長 大	43	3	11-31.1
		3	三 大	53	2	11-23.8
		4	水 大	13	4	11-55.2
		5	東 水 大	23	4	11-31.1
14 20	順位決定レース	1	東 船 大	32	1	11-30.4
		2	日 大	53	2	11-51.0
		3	神 歯 大	23	5	13-41.6
		4	雷 通 大	43	4	13-08.5
		5	海 技 大	13	3	12-00.6
15 10	決 勝 レ ー ス	1	海 保 大	32	2	11-04.1
		2	鹿 大	23	4	11-17.1
		3	防 大	53	1	11-01.3
		4	三 大	43	5	11-39.7
		5	神 船 大	13	3	11-16.1
15 45	閉	会			式	



編集 / 発行 防衛大学校